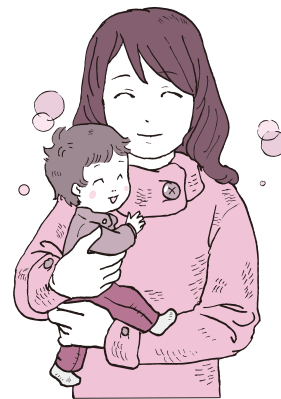


男性と女性のどちらにも伝わりますか？

伝えたい相手は男性ですか？女性ですか？それとも両方ですか？

「スポーツマンの ための施設」	➔	「スポーツをする 人のための施設」
「お母さんのための 子育て講座」	➔	「お母さん・お父さんの ための子育て講座」
「母親と子どもの イラスト」	➔	「男女が協力して育児を しているイラスト」



Point!

内容が男女双方に関わるものであるのに偏った表現を使うと、伝えたい相手に正しく伝わらないことがあります。勤労者やスポーツをする人などを対象とした制度にもかかわらず、「サラリーマン・スポーツマン」と表現したり、育児支援関係のポスターなどでは「母親と子ども」といった内容のものが多くみられます。

男性だけが登場するイラストを使用すると、女性は自分が対象ではないと感じるかもしれませんね。また、女性だけが子育てをしているというイメージも固定化されているようです。

現在は、育児休暇を取得し、育児に積極的に取り組んでいる男性もみえます。男女どちらかに偏らない表現にしましょう。

男女を対等な関係で表現していますか？



男性を中心的・指導者的な立場、女性を従属的な立場で表現したり、同じ職業や地位をあらわすとき、女性の場合だけ「女」をつけていませんか？

学校等の受付名簿	➔	男女混合名簿
父兄		保護者
女房役		補佐役
主人・亭主		夫
家内		妻
女社長	➔	社長
女医		医師
女弁護士		弁護士

Point!

以前、学校の出席名簿は「男性が前、女性が後」の順でしたが、男女対等な立場を意識することにより、生年月日順や五十音順などのように「混合名簿等」にしているところが増えてきています。

家庭生活において、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担でなく、対等な地位の表現にしてみませんか？同じ職業や地位であっても女性を特別視していることがありませんか？

男性または女性だけに使われる表現は避けて、男女どちらにも使える表現にしましょう。

「男女共同参画」と言うとなつとつ、男と女という言葉に反応してしまいがちですが、男女共同参画社会が目指しているのは、家庭・地域・職場で「誰もが自らの個性と能力を發揮し、自分らしく生きられる」社会です。思いやりを持って一人ひとりを大切にしていく社会が男女共同参画社会であるのなら、私たちの毎日の生活や仕事にもいろいろ関わってくると思いませんか。

生活の中で相手を尊重し、思いやりのある態度で接すること、「ありがとう」と感謝の気持ちをちゃんと伝えられることによって、お互いの大切さに気づく事も、そのひとつだと思います。

「あなたらしく 私らしく 誰もがキラリ輝くまち 飛騨高山」

これは、第2次高山市男女共同参画基本計画でめざす高山市の姿です。

「男だから、女なのに」から、その人らしさへ視点を変える。これから必要なのは、こういった柔軟さを持つこと。まず人を思いやるやさしさが男女共同参画推進への第一歩となります。

毎日の生活や仕事の中で、「男女共同参画社会」の視点を持って、自分が関わっていることはなんだろうとちょっと考えてみてください。意外と身近なものなんだと気づいていただけたらと思います。